

N.T. 2025年卒 スポーツ福祉コース

## こんな学生時代を過ごしました

- キッズトレーニング実習にて子どもとの接し方や伝えたいことを伝える難しさを知った。運動を通して楽しみながらも頭を使ったり周り協力したりと実習ならではの体験を考えられたと感じている。各グループごとにテーマを設け、それに沿った運動やルールを考えることで、想像力とリスクマネジメントの力が養われた。
- 2年次からは山本ゼミに所属し、車いすソフトボールに取り組んだ。障がい者と健常者関係なく勝利を目指し、週1回の練習会と年に数回の大会に臨んだ。特に2月の北九州大会は学生主体となって大会を運営し、選手としての苦労と運営の大変さを知った。特に営業係であった私は大会前に山本先生と協賛企業にご挨拶へと出向いた。大会の協賛をしていただくにあたりその時の経験が今の営業活動にも生かされている。
- 部活動では4年間硬式野球部に所属し、毎日練習に励んだ。学業とアルバイトもしつつ、それ以外のほとんどの時間を部活動に費やした。神宮大会出場という目標に向かって仲間と競い合い、切磋琢磨しながら大学生活を送れたことはとても誇りに感じている。
- アルバイトでは主に居酒屋と障がい者スポーツセンターで働かせていただいた。2点に共通することは多くの人と接する点で、社会人になる前の大切な時期に社会を知るという意味では非常に貴重な経験だと考える。もちろんお金を稼ぐという行為簡単ではないことに気づくことができたのも自分の中で大きな成長だと感じている。学生時代のコミュニティから広い視野で社会を見ることで自分の立ち位置や常識を学び、社会人になる準備ができる。



野球部の同学年で引退後に最後に北九大のユニフォームに袖を通した写真。思いっきり野球に取り組める環境を整えていただいた先生方、家族、チームメイトには頭が上がりません。

## 卒業後こんなキャリアを歩んでいます

4月からの1ヶ月は研修として社会人の基礎を学んだ。社会人として働く中で学生と違う点を学び働く前の下準備をした。そしていざ社会人となり私は法人向けの営業職に配属された。扱う商材は主に什器と言いつつ小売店舗の商品が陳列されている棚を営業している。5月から仮配属され上司の商談に同行する日々を過ごした。上司や先輩と過ごす中で大きく感じたことは「伝えることの難しさ」。報連相とよく耳にするようになったが、自分の中でわかっていることも上司やお客様に伝わらないことが多く、苦戦した。相手の立場になって考えることは口で言うほど簡単ではないことに気づく。自分の視点ももちろん大切だが相手の目線で物事を俯瞰して見るには冷静な判断と相応の知見が必要。そんな知識も経験もない中で日々様々なことを吸収している。半年ほど経ったころには1人で現地調査や商談に行き、お客様と接する機会を増やすことで自分の経験に。不明点はありつつも新人らしくフレッシュに対応し、宿題として社内へ持ち帰り、確認して再度お客様のところへ。今もまだまだ成長段階。将来的には昇進し、部署を任せられるような営業マンへ。

プライベートではゴルフに励んでいる。社内コンペにも参加し、多くの社員とコンタクトを取っている。いざという時に頼れる社員が増えるのでとてもオススメです！



同部署55名の集合写真。同期の存在は大きく、このメンバーが頑張っていると自分も頑張れます！

## 現役生へのメッセージ

学生として過ごす時間は長いようであっという間です。卒業時に振り返ったときに「この学校に来てよかった」と思えることが1つでもあれば、それで正解だと思っています。少しでもやりたいことがあれば挑戦してみて違うと思ったらまた別のことに取り組みれば良くて、最終的に正解が見つければ全ての過程に意味があるということではないでしょうか。限りある学生生活を思う存分楽しんでください！

(2025年12月8日執筆)